

A グループ(遊び・体験の支援)

メンバー: 今野(こども∞感ぱに一)、宮野(まなびのたね)、打矢(都市計画課)、千葉(なかよし保育園)、
畑(北上子育て支援センター)

ファシリテーター: 阿部(ベビースマイル[らいつ])

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①遊び場(屋内) ※もっと教えてほしい!

- ・らいつ
- ・いっしょえきまえ
- ・なかよし保育園(一時保育やってます)
- ・移動型児童館
- ・ベビースマイル
- ・子育て支援センター(プール、親子ヨガ)

キーワード②遊び場(屋外)

- ・東中里広場、中瀬公園
- ・セイホクパーク
- ・こども∞感ぱに一、その付近の道路
- ・日和山公園

キーワード③体験・イベント

- ・支援センター(プール、豆まき、ハロウィンなど)
- ・Swish
- ・園
- ・支所、交流ホール
- ・児童クラブ

キーワード④その他

- ・TEDIC
- ・こども食堂

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりが見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

・いろんな場所でのイベントは学校などからもらってくるが、親の関心がないと子どもに情報が伝わらないのでは?と思う

- ・情報不足? SNS、パンフレット
- ・園、児童クラブ、学校へ掲示、地域への発信。連携不足

②アクセスの視点(身近な場所/アウトリーチ)

- ・交通手段がない(バス、車) 石巻は公共交通が弱い
- ・子どもは居場所だからと思って行っていないことが多い? 子どもが居場所につながるためには、自分が行きたいと思える場所が近くにあることが大切。自力で行けるとつながり続けられる
- ・乳児であれば、親が子どもを連れていろんなところに行って交流、遊び、体験はできるが、学校に入ると、放課後はどうしても行動範囲が学区内のみになり動けない(親が働いているため)
- ・アウトリーチ。実際困っている子どものもとに行けるのか?

③居場所×居場所の連携の視点

- ・支援が必要な子どもをネットワークで支えることで、子どもが居場所につながる事が出来る

④その他

- ・学校との連携
- ・家族という機能の低下(去年の高校生が亡くなってしまった事件)
- ・暑さ。外出しないほうが安全、クーラー必須

※ワークショップ②の付箋の補足:

- ・石巻は公共交通が弱い
- ・知っていても行く手段がない
- ・学校と連携して一人の子のとりこぼしがないように

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- ・考え続けること。行政×民間の対話
- ・お互いの活動を知る、顔がつながること
- ・それぞれの地域の中に根づく居場所づくり(小さな地区ごとに)
- ・子ども会が激減していて、地域が薄くなっている。どうにか交流の機会を増やしていくといいのでは？地域と行事などふれあい
- ・孤立世帯の把握。民間、行政のつながりの場
- ・ケースに対してのつながり方、地域資源の使い方の学習会
- ・どうしても学校などの組織にも加わってもらい必要があるのでは？特に思春期に入る前の小学校とか・・・
- ・園、学校、支所、地域の連携
- ・アクセス整備、送迎バス、地域バス、無料か格安のローカルバス。高齢者向けのバスが運行しているように、子どもも安心して乗れる巡回バスなどあるとうれしい(らいつ、公園行きなど)
- ・SNS 発信。子どもから発信。子ども向けホームページ
- ・リソースマップの共有

※ワークショップ③の付箋の補足:

- ・考え続ける、対話していくこと
- ・地域それぞれが力をつける 常時 移動型児童館のような
- ・送迎バスを地域で
- ・民間、行政が協力し続ける

《本日のグループワークのポイント》

★ 地域の力をつける 地域学校の連携

(まとめ)

Aグループは、「遊び体験の支援」を中心にお話したが、みんなが納得したキーワードでいうと、「地域の力をつける」というところ、また、「地域学校の連携」というところが、みんな最後に、ここが大事ということで星マークをつけた。

Bグループ(遊び・体験の支援)

メンバー:近藤(ベビースマイル[らいつ])、柴田(にじいろクレヨン)、西村(りとりと)、須田(社協)、
加藤(都市計画課)

ファシリテーター:相原(乳幼児保育園ミルク)

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①遊び場(屋内) ※もっと教えてほしい!

- ・にじいろひろば、・こども食堂(ぼんず・貞山)、・ひよりスペース(学習支援)、・かわべい
- ・集会所(夏休みはクーリングシェルターとして)、・児童クラブ、・ささえあいセンター、・イオン

キーワード②遊び場(屋外)

- ・こどばに一等フリースクール、・亀ヶ森冒険遊び場、・各地プレーパーク、・中瀬公園
- ・学校、・川辺(堤防)、・にじいろ農園

キーワード③体験・イベント

- ・町内会行事(土日開催)、・ジュニアリーダー、・チャレンジキッズ(蛇田小学校・学校運営協議会)

キーワード④フリー

- ・駅前、・市民センター、・図書館、・市役所一階のフリースペース、・イオン、
- ・ささえあいセンター2階エントランス

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりを見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・情報が多すぎる ⇒子どもへのチラシが多すぎて見る気なくなる
- ・チラシをもらっても場所がわからない⇒地図を読めない、住所がわからない、自分の住んでいる場所が知らない
- ・そもそも大人への発信となっているから
- ・困窮世帯、情報をキャッチできない人に必要な情報を届けるには? アプローチ方法
- ・子どもにチラシを渡しても親まで情報が届かない
- ・学校へのチラシ配布、掲示板での周知以外のアイデアが必要⇒左記の内容では限界があると感じている
- ・知っているけど行かない ⇒子どもが求めている居場所の変化

②アクセスの視点(身近な場所／アウトリーチ)

- ・移動の課題 ⇒電車、バスの乗り方がわからない子どもが多い
- ・そもそもバスマップを知っている? ⇒小学生でもわかるような丁寧なバスマップがある。
- ・バスマップ、時刻表の活用
- ・歩いて行ける範囲に居場所がない
- ・アクセスの問題は移動支援をしている団体、組織とつながる

③居場所×居場所の連携の視点

- ・自分の行ける時間に(居場所が)やっていない
- ・横のつながり作り ⇒お互い興味関心がないと難しい
- ・居場所×居場所(居場所での他の居場所)の情報提供⇒居場所に来たがそこで合わないストップしてしまう
- ・WEB活用(ゲーム大会)⇒オンラインの居場所と既存の居場所との連携

④その他

- ・時間や世間の目(しがらみ)から居場所の選択肢の幅が少ない

・なんとなく(居場所に)行きづらい ⇒新規は入りづらい、一人でも良いの？

・子どもが求めている居場所の変化、オンラインで満たされている？

⇒子どもの求めている居場所が変化している。オンラインでつながっている。

・一人だと心細い、行く時間がない。

・居場所に来る人が固定化されてくる。

・居場所に友だちがいない。 ⇒ 不安

・小学生でらいつに通っていた子同士が大人になってつながる。

※ワークショップ②付箋の補足(ほとんどは付箋の内容に対して右記で記載している。)

・チラシをもらっても地図が読めない。住所がわからない。バスマップの活用が出来たら。情報が詳しくない。

・子どもも忙しくて休みたい。家にいたい。

・一人で居場所に行くのはハードルがたかい。

・バスや電車の乗り方がわからない、抵抗がある。

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

[バスの活用]

・子ども版バスマップを作る

・子どもの積極的な公共交通機関の利用促進(積極的に利用出来るような施策)

・ 乗り方は親が教えないと・・・

[WEB活用]オンラインでつながる人が増えれば！

・e スポーツ大会してみるの？ ⇒団体戦がいいな！

・市主催ゲーム大会 地区予選 ⇒本戦

・市が配布しているタブレットの有効活用、・石巻市のLINEの有効活用

[子どもの発信力].....子ども同士の声がけ。「楽しいから今度来てよ！」みたいな。

※ワークショップ③の付箋の補足:

・こどもの居場所に関する情報不足 ⇒アプリで「子どもの居場所を巡りポイントを貯める」ようなのはどうか

・一人で不安 ⇒ 子ども同士での声がけ／友だちがいない ⇒ 新しい出会いへの一歩

・学校のタブレットの有効活用⇒石巻版バスマップの導入や児童地震がイベントを確認できるページなど

・バスの利用率が低い。⇒自家用車での移動。子どもがバスや電車を利用する機会が少ない。

⇒ どこにいくにも車が必要で親の送迎が必須。 ⇒ 子どもにバスを利用してもらう。

《本日のグループワークのポイント》

★ ウェブ活用、バスマップの活用

(まとめ)

Bグループでは、Web 活用とバスのバスマップの活用を挙げさせてもらった。Web 活用では、子どもの居場所の考えや求める場所が変わってきているというところから、繋がりを活かして、Web を使ったゲーム大会とかのような子どもの居場所をつくっていけるのではないかが一つ。あとは、バスマップについて、そもそもバスに乗れない子、電車を使えない子、公共交通機関を使えない子たちが結構増えてきているのではないかな。バスマップでバスの乗り方とか、バスマップを活用して、繋がりをふやしていけるような対策をしていくといいのではないかなということが出された。

Cグループ(食の支援)

メンバー: 後藤(ていざん子ども食堂)、佐々木(バンビーニ)、ミラード(ビーワンススポーツセンター)、
柏原(やっぺす)、佐々木(保健福祉総務課・総合相談センター)
ファシリテーター: 及川(社協[桃生支所])

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①子ども食堂

・オアシス、・ぼんず、・ひのこ、・大森、・コスモス、・やっぺす、・バンビーニ、・ユナイト、・りとりと、・みんなの家、・ピーす

キーワード②食糧支援

情報なし

キーワード③宅配サービス

情報なし

キーワード④その他の居場所

- ・いっしょえきまえ
- ・ベビースマイル
- ・らいつ
- ・TEDIC
- ・駄菓子屋
- ・カラオケ合衆国
- ・イオンのイートイン
- ・地域のスーパー
- ・まきあーと
- ・ゲームセンター

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりが見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・子どもへの情報提供(情報提供の仕方、内容、発信場所をみつけやすい)

②アクセスの視点(身近な場所／アウトリーチ)

- ・アクセス(子ども食堂開催地が旧市街地に集中、学校全体に周知しても気軽に足を運ばない、親の同意、送迎の必要、情報のかたより、常にオープンでない)

ワークショップ③: 居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- ・子ども向けの情報、サイト運営(子育て向けはあるが、小学生でもわかりやすい内容で)
- ・学校や公民館等の施設を利用して、徒歩でも子ども達が来れる機会を提供?
- ・各学区、地区で移動児童館ならぬ移動子ども食堂や定期イベント(行政との共催で。安全管理や予算、一緒に考える)
- ・デマンドタクシーの利用

- ・子どもだけで参加できる
- ・イベントへ連れて行ってくれるボランティアの発足
- ・教育の居場所としての役割と、他の居場所がつながっているか。SNS のつながりとリアルがつながっているか

※ワークショップ②の付箋の補足:

(今日のキーワード)・個々の想いを集結、地域の福祉力、地域に応じた取り組み

《本日のグループワークのポイント》

★開催地域の片寄り 地域の力 学校で子ども食堂を開催

(まとめ)

C グループは、食の支援チームということで話し合いを行った。まず、地域の資源ということで、子ども食堂や地域食堂がたくさん挙げられたが、開催している場所が、やはり地域によって偏りがある。市内の方が多くて、やはり遠方の方からは、やっていることを知っていてもなかなか行けない、アクセスがない、子どもが一人では行くことができないというところで、移動課題という話も出た。話し合いのキーワードとして、出たところは、やはり「地域の力」というところ。地域にはきっとたくさんの思いを持っている方がいると思うが、そういう方たちの想いを集結させることで、地域の福祉力の向上にも繋がって、取組の方にも繋がっていくのかなという話が出された。

また、学校の方で、もし、子ども食堂を開催していただければ、授業が終わって、そのあと宿題をやって、ご飯も食べることができて、となれば、親としても助かるではないかという話が出された。

Dグループ(食の支援)

メンバー:森(ひのこ子ども食堂)、兼子(りとりーと)、黒澤(社協[河北支所])、門間(こども家庭センター)

ファシリテーター:弘田(フィッシャーマンジャパン)

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①こども食堂

- ・ひのこ子ども食堂(中里、鹿妻、中央、開北、渡波)
- ・やっぺす
- ・りとりーと
- ・ぼんず子ども食堂
- ・BIGUP
- ・ビーワン教会
- ・オアシス教会(食糧支援)
- ・女川みんなのダイニング
- ・かけこみ寺
- ・TRITON 千石(食育イベント、魚をみんなで料理して食べる。高校生向け)

キーワード②食糧支援

- ・フードバンク
- ・TEDIC
- ・こみゅばん
- ・こども∞感ばにー
- ・料理の体験(自分で料理をつくる自立に向けた支援)
- ・こども食堂に受け取りにくる方に、食糧支援をしている。

キーワード③宅配サービス

情報なし

※ワークショップ①の付箋の補足:

- ・こども食堂があったとしても、つながっていない。
- ・宅配サービスの必要性は?あるよね。
- ・相談がつながっていない。
- ・親に言わず来る子もいる。

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりが見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・情報が入ってこない(知っていたとしてもハードルが高い、一人では不安)
- ・学校への案内、先生方への告知
- ・集まりやすい場所への掲示
- ・アクセス。支援者につなぎたいが遠い。保護者が送れない、バス代がない、自転車で行けない
- ・保護者へ SNS 発信
- ・行政との連携
- ・すべてに関して見える化

- ・情報がアップデートされていないと新しい情報が入らない
- ・支援者同士のつながり方をどうしたらよいか分からない

※ワークショップ②の付箋の補足:

- ・情報を貼らせてくれる場所はどこか？食支援のMAP(先生用、子ども用)

②アクセスの視点(身近な場所／アウトリーチ)

- ・親にそもそも時間がない、アウトリーチもっとほしい？
- ・親の協力が得られにくい(親の理解？)

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- ・学校と子ども食堂の連携、情報があるか？学校との関係
- ・保護者、学校、行政の理解
- ・「学校」と「地域の支援機関」をつなげるコーディネーターの存在
- ・コーディネーターに「お金」をつけることで情報の見える化を推進
- ・集まって話して情報の見える化
- ・集めた情報を可視化する(伝わる情報)
- ・場所は探せるけど・・・
- ・行政の支援(お金)
- ・団体の連携
- ・民、行、福祉団体の三者連携
- ・行政の方たちの現場の把握
- ・親の働き場所、企業の誘致
- ・地元を好きになってもらえるように！

※ワークショップ③の付箋の補足:

学校の人が、子ども食堂に連れてきてくれている

その他のご意見:

- ・情報の可視化が足りてない
- ・子ども Ver.の支援MAP、リソース支援
- ・予算の配分、見える化
- ・市を通さないと補助できない仕組み

《本日のグループワークのポイント》

★ 集めた情報を可視化、保護者理解、コーディネータに予算をつける

(まとめ)

D グループは、子ども食堂や食糧支援ということで、食の支援について話した。キーワードは、3 つ。一つ目は、そういう集めた情報をしっかりと伝わる情報として可視化しましょうという話で、二つ目が、保護者や学校の理解を、あと行政も含めて、理解を促しましょうという話し。最後三つ目が、学校と地域の支援機関をつなげるコーディネーターにしっかりとお金をつけましょうという話この3 つです。

Eグループ(生活支援)

メンバー:相原(乳幼児保育園ミルク)、小口(アンフィニ)、杉浦(アンフィニ)、今野(雄勝 市民福祉課)

ファシリテーター:佐藤(ベビースマイル[issyoeきまえ])

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①お金のこと

- ・社会福祉協議会、・石巻市役所、・子ども食堂各団体、・フードバンク石巻

キーワード②学習支援

情報なし

キーワード③放課後の支援

- ・放課後児童クラブ(各団体、企業)
- ・スポーツ少年団
- ・各小学校
- ・イオン
- ・マンガ館近くの公園
- ・ベビースマイル石巻
- ・海岸

キーワード④就労支援

情報なし

キーワード⑤法的トラブル相談

情報なし

キーワード⑥その他

- ・子育て支援センター
- ・私立保育園各団体、法人
- ・のぞみ野各町内会、子ども会

※ワークショップ①の付箋の補足:

- ・自分がこどもの頃は放課後よく海に行っていた記憶がある
- ・子ども会やっている所少ないですね
- ・子ども(の姿)が見える場所ってイオン以外であまり分からない

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりを見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・特定の地区しか知らない・・・こども新聞／ICT／人と人一斉周知(POP)

②アクセスの視点(身近な場所／アウトリーチ)

- ・学区外問題
- ・地域格差
- ・移動手段の少なさ
- ・徒歩移動できない
- ・住民バスの本数が少なく、自家用車での移動となり子ども自身で動くことができない

③居場所×居場所の連携の視点

- どういった場所があるかわからない、誰が、何をする場所なのか

④その他

- 情報が入ってこない(学校に行っていない)

※ワークショップ②の付箋の補足:

- こどもの数による地域格差があると思う。
- 自分自身らいつが何をする場所なのか誰が対象なのか分かっていなかった。
- 10 年経って石巻に戻ってきたら、らいつが出来ていたり児童クラブの長期休みに児童クラブが利用できるようになっていたり、利用時間が長くなっていたりと変わっている事が多かった。
- 分かっている大人と分かっていない大人がいるのでこどもに情報が届きにくい。
- 学校に行けている子は情報が分かって、不登校の子は情報が入らない事も多いと思う。こども新聞の発行や、ICT を活用してどのこどもにも情報が伝わる方法があると良い・こどもの数による地域格差があると思う。

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- 各団体がつながること
- 事業者間を超えた関係
- 団体同士の横のつながり

※ワークショップ③の付箋の補足:

- 大人の事情や企業の競争などの都合で実際に横に繋がるのは難しい。
- プロポで手をあげて民間委託を受けて運営を行い、次年度から親子漢字検定の機会を作ろうと考えている。横の繋がりを強める事で民間の出せる個性が無くなってしまわないか。
- 平等に同じことをしようとするのは難しさがある
- 石巻出身として地元が好きな気持ちもあるので、何かできればとは思う。
- 小さい団体なので蛇田地区の子どものこどもを支援している。石巻市全体となると難しい。他の地区にはほかの団体で支援した入る所も多い。
- 親の就労などで児童クラブにこどもを預ける為、こどもが(児童クラブに)行きたい気持ちだけではない。なので、事業所は(こどもに楽しんでもらえるよう)工夫している。
- お互いにどんなところか知り合う為にこのような機会がもっとあると良いと思う。

《本日のグループワークのポイント》

★ こども新聞 ICT活用 各団体の横のつながり

(まとめ)

E グループは、生活支援がメインのグループで、児童クラブを運営する団体さんも多かったが、アイデアとしては、子ども新聞を発行するとか、ICT 活用で、その子どもへ情報を取り入れさせてあげたいという意見も出て、最終的には、各団体のその横の繋がりというものが、子どもまんなかになる第一歩だけれども、まだまだ課題も多いよねというお話になった。

Fグループ(生活支援)

メンバー:佐藤(アトムズ)、菅原(一視同仁会[鹿又児童クラブ])、下村(アンフィニ)、千葉(アンフィニ)、
亀井(アンフィニ)、大森(河南 市民福祉課)

ファシリテーター:豊宮(ベビースマイル[ファミリーサポート])

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①お金のこと 情報なし

キーワード②学習支援

- ・子ども食堂ぼんず(貞山たばこ会館)、・子ども食堂(いろいろなところでやっている)、
- ・コイル、・TEDIC

キーワード③放課後の支援

- ・児童クラブ、・アトムズ、・ブレーメン

キーワード④就労支援 情報なし

キーワード⑤法的トラブル相談 情報なし

キーワード⑥その他

- ・ささえあいセンター、・レインボーハウス、・図書館、・マンガ館、・イオン石巻、
- ・駄菓子屋(町のあちこちにある)、・いっしょ、・なかよし子育て支援センター、・らいつ、
- ・市の公園施設550か所など、・セイホクパーク、・プレーパーク

※ワークショップ①の付箋の補足:

- ・駄菓子屋は石巻にいろいろある。ジャンプ、内海商店、月に1~2回だけオープンする山下の駄菓子屋もある。オープンする情報は店の前に張り出される。
- ・イオンは、夏休み中、避暑地になって居場所にもなっている。

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりが見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・友達からの口コミがない
- ・実際子どもたちはどこから情報を得ているのか(親?友達?スマホ?)
- ・場所が分かっても詳しいシステム等が分からないと足が運びづらい。

②アクセスの視点(身近な場所/アウトリーチ)

- ・近所がない(自転車で行ける範囲)、交通手段がない
- ・時間が合わない、親に余裕、時間がない(習い事、YouTube)
- ・第三者の協力、お任せできる人がいない
- ・費用がかかる、・認知されていない
- ・登録が必要(初期登録などは、親にやってもらわないとできないとか・・・?)

※ワークショップ②の付箋の補足:

- ・居場所まで連れて行ってくれる人、第三者の協力がないと居場所まで行けない。
- ・こども自身で情報を仕入れることは難しい。限界がある。
- ・親子一緒になって居場所が見つけられるようになると良い。
- ・チラシだけでは繋がれない。
- ・親の意識改革、親がこどもへの関心をもっと持つべきである。

- ・居場所の存在が分かっているけれども利用するシステムが分からない。初期登録が子どもだけではできないので、親の興味関心を持ってもらうことが大切ではないか。
- ・子どもたちの情報源は子ども同士の口こみが多い。
- ・親の送迎、時間が合わないため利用できない子もいる
- ・こどもが行きたいイベントがあっても足がないと行けない。親の手間がかかる

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- ・アクセスが悪いので、市の住民バスのような子ども専用バスの運行
- ・こどもまんなかアプリ
- ・小学校の行事に組み込む(総合学習として、親子で平日に施設体験)

※ワークショップ③の付箋の補足:

- ・子ども用の住民バスが運行すればこどもたちは自分の力で居場所にいけるのでは？公園行きのバス等
- ・学力を上げるだけではなく、石巻の個性を活かして学校の授業に漫画を取り入れる、居場所に漫画本があるなどしてはどうか？マンガの街を石巻で押してみても？
- ・小中学校全生徒に配布しているタブレットに石巻の子ども用の情報が載っているアプリをインストールし、そこには石巻のイベント情報や、フリースクール情報、スポ少の情報など、子ども自身が情報を見つけ、親に行ってみたいと伝えることができる「こどもまん中アプリ」を取り入れてみてはどうか？皆平等に情報を見つめることができ、そこにはバス情報もあり、自分で行くこともできるように案内も載せるような情報アプリが欲しい。(学校から配布されるチラシはデータ化され、保護者のスマホ止まりで子どもの目にまで行き届かないことが多いため)
- ・各施設を体験しに、学校の授業の一環で、各学年で一斉に親子で施設に体験をしに行く。すると親も理解が増し、送迎を快く引き受けるようになるのでは？

《本日のグループワークのポイント》

★ こどもまんなかアプリ タブレットで見れる、石巻の情報アプリ

★ 学校行事の中(総合学習など)で親子見学・体験 こども専用の住民バス

(まとめ)

F グループは、児童クラブの運営や学習塾を運営されている方々のグループとなっていた。その中で、「こどもまんなかアプリ」というのがあったらいいのではないかという話になった。こどもに、イベントの情報だったり、活動をしていたりすることが、なかなか行き届かないで、親で止まっているところから、小学校とか中学校にタブレットが届いていると思うので、その中で子どもが見られる、この石巻の情報が載っているアプリみたいなのがあれば、子どもがそこをピッとやると、いろんなイベントが出てきて、週末ちょっとここの行きたいのだけだなんていうような、言えるようなアプリがあるといいよねというアイディアが出た。

あと、なかなか親子で新しい施設に踏み入ったりとか、見学に行ったりとか、なかなか行けないということもあるようなので、学校の行事の中に組み込んで、総合学習の時間などに親子でその施設に今日は行ってみたいというところで見学をして、いろいろ体験をしてもらうという活動も行ってはどうかなというアイディアが出された。

更に、やはり子どもが居場所に行くのにはアクセスが悪いので、子ども専用の住民バスみたいなのがあれば、今日はここ、セイホクパークまでの送迎は、何時から何時というように、そういうのがまるめて、アプリで見れたりとかするといったのかなというアイディアが出た。

Gグループ(生活支援)

メンバー: 須田(ベビースマイル[issy0へびた])、椎名(セーブ・ザ・チルドレン)、金谷(社協)、
阿部(健康推進課)、杉浦(保護課)
ファシリテーター: 高橋(TEDIC)

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①お金のこと ・バイト先

キーワード②学習支援

- ・フリースクール(こども∞感ぱにー)、・習い事(ほかの学校の子どもがいる場所)、塾
- ・子どもの学習、生活支援事業所(市内5か所)、・ささえあいセンター、
- ・TEDIC、・石巻圏域子ども若者総合相談センター・フリースペース(駅前)

キーワード③放課後の支援

- ・児童クラブ、・公園、・児童館らいつ、

キーワード④就労支援 情報なし

キーワード⑤法的トラブル相談 情報なし

キーワード⑥その他

- ・学校、学校の校庭(先生がいない、子どもだけの世界としての居場所)、・自宅、親戚宅、友人宅
- ・保育所、託児先
- ・まきあーと、・公民館、集会所、・教会、・子ども食堂、・石巻レインボーハウス(中里)
- ・ほっとんち(蛇田)、・イオンのフードコート、イートインコーナー、・ゲームセンター

※ワークショップ①の付箋の補足:

空間としての居場所だけでなく、学校の先生や保育先の先生も、人に紐づく居場所になりえる。

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりを見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・学校を通してチラシ等配布、配信(メールなどで)されているため、親のところでストップしている
- ・学校が情報源、給食がある、信頼できる先生(大人)、学校に負担大、生活力の弱い家庭、問題を抱える世帯の増加、改善
- ・何を通せば広く周知できる? そもそも知らない人が多い?

※ワークショップ②ー①の付箋の補足:

- ・学校によって、情報の配信のされ方が違う。紙でもらうチラシであれば子どもも見ると、アプリでデータ配信される場合は、親のところで情報がストップしてしまう。クラス内でも子ども同士の情報量の違いができてしまう。学校単位でも差がでてしまう。
- ・何を通せば広く周知できるのか? (セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのまなび給付金について) 多くの学校にチラシを配布しているが、なかなか繋がらない。
- ・最大の情報源は学校。給食をきっかけに学校にくることで、先生と繋がれないか。

②アクセスの視点(身近な場所/アウトリーチ)

- ・アクセス、車が必要、送迎(学区外の場合)
- ・仕事の時間の関係で送迎できない、車を持っていない、運転が怖い、送迎の車に子どもを乗せたくない
- ・学校開放(図書室など)

※ワークショップ②ー②の付箋の補足:

- ・学区外の場合、車での送迎が必要。
- ・車を持っていない世帯も多い。親御さんが、市内中心部を運転することが怖いという声や、団体送迎の車に子どもを乗せたくないという声がある。仕事の時間の関係で保護者が送迎できない世帯もある。
- ・放課後デイサービス等も送迎が必要になっている。
 - 問題を抱える子どもの親自身が、頑張らない・頑張れない。
 - 通学路の安全性にも疑問がある。通学バスにするなど、対策を考えたい。

④その他

- ・(保健師目線の意見)なぜ居場所が必要か?→自宅に安心できる居場所がない→親子・家族関係の改善に動いたほうがいいのか。
- ・子どもの自己肯定感という核となる部分、元々のところを修復することが必要なのではないか。

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- ・学校とつながる
- ・保護者へのアプローチ(ポジティブディシプリン、そもそもこない)
- ・自宅が居場所にならない子どもたち。安心できない?
- ・親子、家族関係つなぎ

※ワークショップ③の付箋の補足:

- ・やはり情報の中心は学校。学校とつながることも大事。私たちが何者なのかを先生に知ってもら。校長会や教頭会を開いて事業を知ってもらう。
- ・若い世代への教育(ポジティブ・ディシプリンなど)も必要。「若者の未来のため」と言いつつ、最終的な責任は若者本人任せになっている。
- ・何かあったときに法的な権限がある機関(児相など)で子どもを保護することができるようにする。
- ・「開かれた学校」を目指していたはずなのに、事件が起きるたびに学校は閉鎖されて行ってしまう。
- ・町を歩いていて、「この親子大丈夫かな?」と思うときがある。つながっていない子どもや保護者とどうつながれるのかを考えている。

その他

- ・親の経済面や病気などを理由に子どもの権利が剥奪される権利はない。生まれは不平等。それを埋めることが必要。
- ・民生委員と繋がる必要性

《本日のグループワークのポイント》

★ 保護者へのアプローチ 日常できづいた どうつなげられるか

(まとめ)

Gグループでは、そもそも居場所もそうだが、家庭内でいろんな困り事とか課題を抱えている世帯も多いので、そもそも、その課題感の解消とか保護者のMのアプローチも必要なことだよという話をしていた。あとは、まちを歩いていて、この親子をちょっと気になるな、みたいなことも多いと思うが、そういう方たちにどうやって、これは何か解決策が見つかったとかではないんですけど、なんかどうやって、つながれるか、どうやったらつながれるのかなということをと話していた。

Hグループ(多様な学びの支援)

メンバー: 田中(こども∞感ぱにー)、武山(石巻国際未来学館)、大庭(TEDIC)、加藤(まちと人と)、
阿部(学びサポートセンター[コイル])、佐藤(学校教育課)
ファシリテーター: 中川(3.11 メモリアルネットワーク)

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①あそび

- ・こどもセンターらいつ
- ・プレーパーク(ひがこー、わたのは、にじいろくれよん畑)
- ・各種公園、子どもたちに聞きたい(セイホクパーク)

キーワード②まなび

- ・教室、学校内のフリークラス、・校内学び支援、・フリースクール(ぼはっく、AT スタディールーム)、
- ・けやき教室、・子どもの心のケアハウス、・コイル、・TEDIC 蛇田事務所(ほっとんち)、・児童クラブ

キーワード③親子

- ・はらっぱ

キーワード④若者高校生以上

- ・しゅろハウス

キーワード⑤フリースペース

- ・ささえあいセンター、ヒトコマ、あいプラザ、まきあーと
- ・ビッグバン、遊楽館
- ・図書館、子ども未来図書館(渡波)、かわべの文庫(石井閨門の図書スペース)
- ・MEET 門脇(子どもコーナー)

キーワード⑥ふらっと街中

- ・フードコート(駅前イオン、生協)
- 、蛇田イオン、
- ・コンビニの前、駄菓子屋、お肉屋さん、IRORI
- ・TEDIC 駅前事務所
- ・川開き祭りの屋台、花火大会
- ・子ども食堂(ひのこ食堂)

キーワード⑦ネットワーク

- ・みやネット(多様な学びをともにつくるネットワーク)
- ・まーいいね(まずは石巻から「不登校」という言葉をなくしたいネットワーク)
- ・まきボラ

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりを見える化しよう

ワークショップ③: 居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・インスタ、TikTok を開設、自ら動画を制作、投稿(自分はすでにインスタで顔出ししています)
- ・子ども版 SNS サイト(子どもはどこに何があるか知らない)
- ・学生自身が情報発信してもらえる場づくり

- ・子ども・若者向けのイベント居場所・情報発信(官民かかわらず)
- ・子どもにやってもらったらいいい？ SNS 作成は、若者たちにお願い(有償)
- ・SNS の有効活用
- ・子どもたちの興味をひくようなキーワード
- ・中高生や保護者はネットや SNS で調べるので、市のホームページを充実させる
- ・マスメディアに居場所の取り組みについて紹介してもらう
- ・小学生については、児童クラブで居場所を広報(放課後、自分で居場所を選ぶ経験が少ない)
- ・色々な市の祭り、学校での活動に顔を出す、学校と連携
- ・高校生が大人と協力して何かできる場所

②アクセスの視点(身近な場所／アウトリーチ)

- ・アクセス(送迎補助)
- ・交通手段(前から言われているのでそろそろ市の取り組みを・・・)
- ・駅周辺への施設設置(高校生は運転できないので特に石巻駅前重要)
- ・近場(徒歩、自転車)、駅から歩ける
- ・月 1 回ずつでも、「連れて行くよ」というイベントの実施(主に公共施設までバスを出す)
- ・住民コミュニティバスを100円位で出してほしい
- ・市が宮城交通や JR と契約し、年間パスポート(回数券でも可)を配布

※東浜はかつてフリーチケットがあった

- ・電気自動車(エコカー) 東北電力に協賛たのむ

③居場所×居場所の連携の視点

- ・フリースクール、学習塾(CFC の活用を紹介)

④その他

- ・公民館をもっと活用しよう
- ・災害時に子どもが関われる居場所
- ・石巻の語り部さんとの関わり
- ・まずは大人同士が顔の見える関係づくり
- ・団体同士(人)が知り合う→信頼
- ・地域内の団体(民間、NPO、行政)のネットワークを密にすると流動性が出るかも
- ・勇気が出ない、不安があるとき一緒に行ってくれる人(TEDIC がやっている)

《本日のグループワークのポイント》

★ SNS 子どもたち自身が情報発信 バス子ども料金 官民協働

(まとめ)

Hグループは、多様な学びの支援というグループ。キーワードは三つあった。一つ目が、やはり情報発信のところは SNS と親子、子供たち自身が学校でそういうのを発信するというのが流されれば、もっと知れるのではないかというのが 1 点目。「SNS」、2 つ目は、移動ということで、皆さんからも出ているが、アクセスの部分というのは、お隣の町は 300 円でバスが・・・とかという話もあって、やはりそういう交通手段があればというのが 2 点目。3 点目は、顔の見える関係づくりということで、今日の場もそうだが、やはりネットワークと言っても顔の見える関係、どこの団体が何をやっていてと、ネットでプラス人と人の信頼でつなぐというそういうのが必要なんじゃないかということで、SNS、移動、それから顔の見える関係づくりの 3 つのキーワードが出た。

I グループ(若者の支援)

メンバー: 吉川(子どもにやさしいまちづくり)、伊勢(まなびのたね)、長岡(Swich[石巻 NOTE])、
鈴木(SDGs移住定住推進課)、佐瀬(生涯学習課)

ファシリテーター: 斉藤(まちと人と)

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

キーワード①公的施設

・図書館、分館、・公民館、・学校(高校)、・総合体育館、・コイル、・かわべい、・ささえあいセンター2階

キーワード②商業施設

・蛇田イオン、・ネットカフェ、カラオケボックス、・ファミマ、ファミレス、・ネットカフェ、・キネマティカ、
・シーガル(ゲーム大会)、・スタバ、ドトール、IRORI、ジジホウダン、・石巻まちの本棚

キーワード③公設民営

・遊楽館、・らいつ

キーワード④民間施設

・しゅろハウス(週末イベント)、・サポステ、・からころステーション、・石巻 NOTE

キーワード⑤(地域の景色のいいところ)…無料・若者にとってポイント

・神社、・日和山公園、・駅前の木下

キーワード⑥その他

・ひきこもりオンライン居場所(県)、・大学、・ジュニアリーダー、シニアリーダー、ボーイスカウト、
・こども食堂、・川開き花火大会、トリコローレ、青年文化祭、・スポ少、スポーツ団体、
・エイサー石巻、こども伝統芸能(神楽、太鼓、踊り)、・まきボラ、・石巻ユースナイト、・すぎよいバイト

※ワークショップ①の付箋の補足:

・様々な角度から石巻にある「居場所」について検討。その結果、福祉・児童支援的要素を持つ居場所以外も要素がでてきた。(EX 商業施設(イオンやスタバ)、公共スペース(駅前のベンチ、公共施設のフリースペースなど)
・それ以外にも「体験やプログラム」(ジュニアリーダー、青年文化祭等)も居場所の要素を持つとして出していった結果、想定よりも多種多様なそういう要素を持つ場があることを確認した

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりを見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

・何がきっかけで利用、活動しているか子ども(若者)に各団体全体で聞く
・信頼できる大人から情報提供の必要性+一緒に足を運ぶ
・子ども→青年(ハイティーン)の移行期にどこに行ったらいいかわからない
・市報、市の情報を知らない、・欲しい情報を見つけれられない
・子ども若者目線での呼びかけができていない

②アクセスの視点(身近な場所／アウトリーチ)

・法でも条例でもない制限が多い、・アクセス、遠い、・車持ち、送迎の前提はダメ、ゼツタイ
・公共交通機関がない、車がないと行けない、送迎不可

※ワークショップ②の付箋の補足:

・「エネルギーがない子ども」の課題として情報が届くだけでは一歩踏み出して居場所となる場へが参加できないことが指摘された
・他のグループからも上がっていたが、移動格差の問題は当グループでもよく話されていた
・終盤には「資源(予算)をどこにどう運用していくべきか」という話題がでていた

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

①こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- ・自由度の高い補助金、助成金、予算取り、資金の確保
- ・今ある資源、資金をどう運営するか、大人の本気の対話
- ・プレーパーク、子ども食堂以外の子ども若者の居場所補助金
- ・今ある資源、資金をどう運営するか
- ・大人、保護者が公共交通機関を子どもと使う、意外とバスある！
- ・コミュニティバス(夜間、早朝、安価での運用、通勤・通学など制限なし)
- ・「働くこと」の情報を得られる居場所、・公民館の民間委託、指定管理制度導入
- ・ユースセンター(拠点)あるといい、・居場所専用 SNS で発信、・友達と行きたい、一人では行けない
- ・つながるには属人性(知り合いになる)が大事そう
- ・お互いを紹介できる支援者間の関係性、ネットワークづくり、分野ごとで活動紹介の機会(以前はあった?)
- ・居場所で把握された予測できる課題を受け取れるシステム(マネジメント体制)
- ・居場所マップだけではない支援団体の詳しいリスト
- ・学校生活で地域の人と関わる機会増、・子ども若者視点での居場所になっている?
- ・「相談」できる大人に出会っていない、・興味があっても自ら足を向けるハードルが高い
- ・一人で行きにくい、友達となら行ける、・本人たちの興味が無い(分からない)
- ・一人で居るのがいい、「自分コミュ障なんで」とすぐなる、
- ・エネルギーのないハイティーンの子が安心できる場が少ない、・エネルギーがなくて、情報を得られない

※ワークショップ③の付箋の補足:

- ・「エネルギーがない子ども」に対しては、人(個人)とのつながりがあり、その人から声がかかれば参加しやすくなるのでは?という話しになった。またそのためには学校や支援プログラムの中でそういう関係を築く機会の必要性があるという意見もでていた
- ・移動格差については公共交通機関の利用促進や子ども向け補助、コミュニティバスの運用等が案としてでていた
- ・資源(予算)については、(官民含む)多様な大人たちで対話をしていき考えていく場の必要性について意見がでていた

《本日のグループワークのポイント》

★ コミュニティバス エネルギーのない子人とのつながりが大事

★ 予算、官民協働で使い方をネットワークで考えていくことが必要では

(まとめ)

I グループでは、やはり交通格差みたいなどころ。遠い所だと交通機関も意外に高くて行けない、保護者が車を持っていないと行けないとの話が出て、それをコミュニティバスとか作ってできないかとか、公共地機関をうまく使えるようなシステムを作れないかという話が出ていた。あと、若者の就労支援では、ちょっとエネルギーがない子たちだと、情報を受けとめても、行けないよねというところがあり、どうしたらエネルギーがない子たちも参画できるかということで、やはり人との繋がりとかが大事だよね、じゃあ、どう人と繋がったらいいのだろうねという話もした。あと、最後バスの交通機関の話もそうだが、ちょっと避けて通れない資金の話みたいなどころとして、予算のところをどうしていくかということで、官民連携で一緒になって今ある資源とか、資金をどう運営していくかとかを、ちゃんと対話して使い方を考えていくというところをみんなでやっていく、ネットワークづくりの先とかでそういうところもできたらいいのではないかという話が出ていた。

J グループ(若者の支援)

メンバー:阿部(石巻国際未来学館)、千葉(TEDIC)、松村(ISHINOMAKI2.0)、戸田(地域振興課)、石森(地域協働課)

ファシリテーター:三上(デザインナギ)

ワークショップ①: 地域にあるこどもの居場所を情報交換

- ・学校、フリースクール、・部活、・スポ少
- ・らいつ、・ささえあいセンター(2階フリースペース・キッズスペース)、・放課後児童クラブ
- ・図書館、・公園(北上公園、セイホクパーク)、・かわべい
- ・子ども食堂、・ビーワン協会、・こども∞感ばに一、・TEDIC、・亀ヶ森冒険広場
- ・ヒトコマ、・市役所1階のイオンの飲食スペース、・IRORI、・スタバ、・UmikazeCoffee、・イオンモール、
- ・マック・ドン・キホーテ(の駐車場)、・バイト先(大人の領域に来てほしい)
- ・友達の家、自分の部屋、・オンライン、インターネット、ネットの世界で満足

ワークショップ①の付箋の補足:

大きくわけると4つ。「学校や公園」、「らいつやささえあいセンターなどの公的機関」、「TEDIC やこどばに一などの子ども支援団体」、「イオンやスタバといった民間、自分の部屋やオンラインなどプライベートな空間」。盛り上がった項目としては、ささえあいセンターの人気ぶり、いわゆる「トー横」の石巻版のような立ち位置の『ドンキホーテの駐車場』があった。また、こどもの居場所だけでなく、もっと「大人の領域に来て欲しい」という意見もあった。

ワークショップ②: こどもと居場所のつながりが見える化しよう

①こどもへの情報提供の視点(知る・見つけやすい)

- ・情報を得られない、どんなことをしている場所かわからない
- ・知らないとうとうしょうもない
- ・親から子へ広げる、・子どもが知っていても親が知らないと行けない
- ・「人」を知らないに行けない、・ロコミ、評判
- ・小学生位は当たり前に行けない、「当たり前」に存在していることが大事
- ・インスタ等の SNS

②アクセスの視点(身近な場所／アウトリーチ)

- ・小学生以下、送迎問題
- ・アクセス、自分で行けない、学区外の移動は行きたいが行けない
- ・居場所が町内にない
- ・送る迎えをする車両、人、チャリ
- ・雄勝に住んでいたらどうしようもなさそう
- ・バス、電車。IC カードの利用、マップ等
- ・シェアを頑張る、保険とかどうしよう

③居場所×居場所の連携の視点

- ・子どもの発信者
- ・大人の居場所とアクセス重なるなど、一緒に居場所にアクセスしてくれる人(親でも友人でも)
- ・ファーストチャンス、訪れる、利用する

ワークショップ②の付箋の補足:

- ・盛り上がりがあったのは1と2について。1の知られてないに関しては、情報を得られないとそもそも来れない。親が知っていても子どもが知らないパターンもあれば、子どもが知っていても大人が知らないパターンもある。両方知っていることが大事そうであるという話。
- ・2のアクセスに関してはあるものを有効活用するという文脈と、自転車なども含めた移動手段の制限に関する話題がありました。

ワークショップ③:居場所同士がつながるために必要なことを考えよう

①こどもが居場所とつながるために、どんな事が必要、できるでしょうか。

- ・子どもが「居場所」について考える機会
- ・情報マップ(サイト)
- ・居場所ツアーを開催
- ・街中で放送、広報紙と一緒に定期的に情報発信する
- ・保護者も一緒にまず来てみる
- ・行事のときなど、学校の協力
- ・お金がかからないこと
- ・おおらかな気持ちの大人、大人の余裕、安全な社会、意識を変える
- ・バスの本数を増やすようお願いする
- ・野生の公共の減少(道路で遊んじゃいけないとか、人の土地に入っちゃダメとか)
- ・WIFI
- ・人とつながらない場所が欲しい

ワークショップ③の付箋の補足:

・ワークショップ(2)の話の流れで出ていた自転車の移動現象は大人側の安全意識が強すぎることに原因があり、安全も意識しつつもっとおおらかになった方がよいといった意見など、大人側の意識変革と、逆に子どもがもっと主張できる機会があった方がよいといった意見がありました。

《本日のグループワークのポイント》

★ 自転車 情報・・・大人側の意識を変えないといけない そのような機会が必要

(まとめ)

J チームもいろいろ出たが、アクセスとかに関しては、もっとチャリ使おう！みたいな話とかも出たが、その中で、チャリが使えなくなったのって何だっけ、となったときに、大人側がいやちょっと危ないからだよねという話が出てきて、情報の話でも、子どもが知っていても大人が知らなかったら行けなかったりするよね、みたいな話もあった中で、そうすると、その子どもに対してどうこうというものもあるが、やっぱり、その大人側の意識を、めっちゃ変えていかなきゃいけないし、もっと、おおらかにしてかなきゃいけないし、一方でこのまま子どもでちゃんと自分たちはこうしていきたいよねということを話し合う機会であったりとか、場というのが重要になるのではないかな、そんなことを話した。